



**長野県環境保全研究所などの研究グループは  
地球温暖化の進行に伴い、モウソウチクとマダケの生育に適した環境が  
拡大する予測を科学論文<sup>注1)</sup>として発表します。**

論文は平成 29 年（2017 年）10 月 18 日に Ecology and Evolution 誌（電子版）に掲載されます。

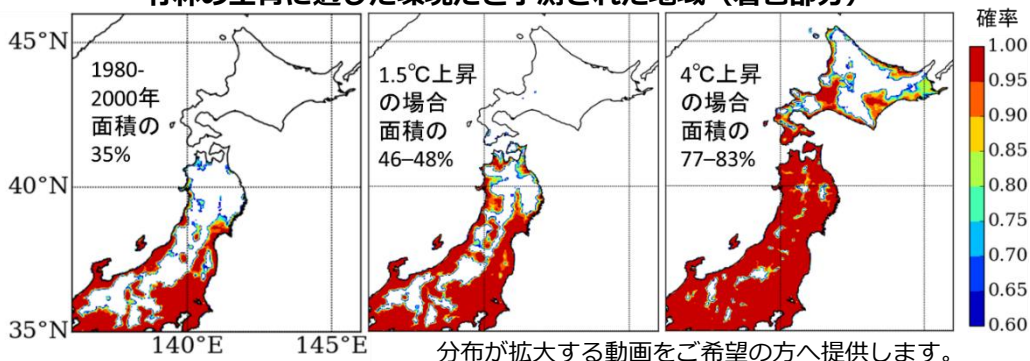
**この研究成果は、10 月 19 日（木）18:00~19:30 にステーションビル MIDORI 長野 3 階 りんごのひろば で行われる「山と自然のサイエンスカフェ@信州」でも紹介します。**

長野県環境保全研究所では、長野県の竹林についてさらに研究を進める予定です。

**【研究の概要】**

- ・ 里山における生態系・生物多様性の脅威となっているモウソウチクとマダケの生育に適した環境が、気候変動・地球温暖化の進行と共に拡大することが統計モデルで予測されました（注 2）。
- ・ パリ協定に準じて温暖化を 1.5℃以下に抑えると、4℃昇温した場合に比べて拡大が抑えられました。こうした影響評価は、現在取りまとめが進められている IPCC（気候変動に関する政府間パネル）1.5℃特別報告書などに貢献することが期待されます。詳細は、別紙（共同プレスリリース資料）をご覧ください。

**竹林の生育に適した環境だと予測された地域（着色部分）**



注 1) 論文情報 : Takano et al. Detecting latitudinal and altitudinal expansion of invasive bamboo *Phyllostachys edulis* and *P. bambusoides* (Poaceae) in Japan to project potential habitats under 1.5°C–4.0°C global warming (日本の外来タケであるモウソウチクとマダケ（イネ科）の潜在生育適域の高緯度・高標高域への分布拡大の検出と 1.5-4.0℃地球温暖化環境下での予測) . *Ecology and Evolution*. DOI: 10.1002/ece3.3471

注 2) モウソウチク・マダケはヒトが植えない限り新たな場所に定着しないと考えられ、生息に適した環境のすべてが竹林に変化するわけではないことに注意して下さい。

本研究は、文部科学省の下記プロジェクトの支援を受けました。



**信州で学ぼう**

しあわせ信州創造プラン（長野県総合 5 か年計画）推進中

Challenge your future



長野県立大学  
THE UNIVERSITY OF NAGANO  
2018年4月開学



信州やまはいく



2018信州絵文祭  
大会マスコットキャラクター  
信州なび助

環境保全研究所 自然環境部（飯綱庁舎）  
（次長）阿部 勝彦（担当）高野 宏平  
電話：026-239-1031（代表）  
FAX：026-239-2929  
E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp